

(7)金属製スクリーン

【柱支持式(P)、壁支持式(W)、方立支持式(H)】

不具合例は、施工関連以外の設計・他工事に関連する不具合例も含まれている。キーワードは事象又は原因を示す。

注) 検査・確認事項の(P)は柱支持式、(W)は壁支持式、(H)は方立支持式を示す。

[計画・設計、施工要因] 注) 当項目表は、一般的な事例であり、メーカー、機種、現場状況により異なります。

注) 検査・確認時期の(O)は、必要に応じて実施、あるいは実施するのが望ましい項目を示す。

要因・時期	キーワード	不備がある場合の不具合例		検査・確認事項		検査・確認時期				備考	
		No.	不具合事例	不具合事例 ※小分類	検査・確認項目	検査・確認方法・ 判定方法	施工時				完成時
							施工前	施工中	施工後		
計画・設計	打合せ・確認	[01]	施工できない納まらない	取付け位置に障害物や干渉物がある	<ul style="list-style-type: none"> 撤去物(既存設置物等)の確認をする (P)基礎位置の地下埋設物(水道管・マス等)を確認する (W)電線、雨樋、室外灯等の干渉物を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 現場にて現物を目視確認する 	○				
				作業スペースが確保できない	<ul style="list-style-type: none"> 車両駐車スペース・作業スペース・材料保管場所・搬入スペース等を確認する 建築図面(平面・立面)が事前入手できているか確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 現場にて実測による確認を行う 元請け又は施主との打合せにより確認する 	○				
				製品取付スペースが無い	<ul style="list-style-type: none"> (W)梁の取付けスペースが確保できるかを確認する (H)方立柱の取付スペースが確保できるかを確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 建築図面または現場状況を目視確認する 	○				
				施工する製品の部材が揃っていない	<ul style="list-style-type: none"> 荷受け・荷積み時に必ず検品を実施する 		○				
		[02]	引渡し後に製品の変形・損傷・破壊が発生する	設置条件に不適合となる	<ul style="list-style-type: none"> (P)屋根の雪などが落下する恐れのある場所ではないかを確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 建築図面にて確認する 現場調査にて確認する 施工図書と目視にて確認する 	○				
				凍上現象によって製品が損傷する	<ul style="list-style-type: none"> (P)寒冷地に該当する場合は凍結深度を確認して基礎穴深さを考慮する 	<ul style="list-style-type: none"> 各市町村の建築指導課や地方公共団体に確認する 	○				
躯体構造下地の強度不足による製品の破損	<ul style="list-style-type: none"> 設置条件を満たした各所要(構造下地他)寸法が確保されているか現場責任者と施工者で各部の納まり等を確認する 			<ul style="list-style-type: none"> 地盤調査報告書にて確認する 	○						
施工前準備	搬入・保管	[03]	材料を現場搬入できない	<ul style="list-style-type: none"> 工事車両を駐車する場所がないために材料を現場搬入できない 	<ul style="list-style-type: none"> 搬入経路、駐車場等が確保されているかを確認する 取付け箇所等の確認はされているかチェックする 	<ul style="list-style-type: none"> 建築図面にて確認する 現場調査にて確認する 	○				
		[04]	製品の変形、損傷がある	<ul style="list-style-type: none"> 荷降ろし時に部材を落して製品が損傷する 	<ul style="list-style-type: none"> 現場での荷扱いや部材の保管には細心の注意を払う 部材の開梱時には変形や損傷がないかを点検する 	<ul style="list-style-type: none"> 目視確認する 	○				
施工中	取付け	[05]	組立て・施工不良	設計強度基準を満たさないことにより製品が破損・破壊する	<ul style="list-style-type: none"> 製品に指定されたボルト・ネジ類を使用して正しく組立てられたかを確認する 部材はメーカー指定のものかを確認する 施工方法はメーカー指定の方法かを確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 目視確認する 触診により確認する 矩計図など図面により確認する 	○				・指定以外のボルト、ネジ類は使用しないこと
				スクリーンの構成部材をとめるビスやボルト類が脱落する	<ul style="list-style-type: none"> 各部材は堅固に固定されているかを確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 現場での実測により確認する 計測器具にて確認する 	○	(○)			・外壁の種類は何かを確認すること(ALC・RC等)
				躯体(下地)への固定不良による破損・製品の脱落の発生	<ul style="list-style-type: none"> 固定用のボルト・ビス類は指定のものを使用して確実に構造下地に固定されているかを確認する 		○	(○)			
				完成した製品が傾いている(歪んでいる)	<ul style="list-style-type: none"> 製品各部位のレベル(水平・垂直・直角)は正しく出されているかを確認する 		○				
		[06]	柱基礎の施工不良	柱アンカーがセットされていない為、吹上で柱が浮く(抜ける)	<ul style="list-style-type: none"> (P)搬入時にアンカー部品を確認する コンクリート打設前に柱アンカーがセットされているかを確認する 		○				
				柱の沈下が起きる	<ul style="list-style-type: none"> (P)割栗石の投入有無と確実に填圧したかを確認する (P)基礎寸法が設計基準と通りの寸法になっているか 	<ul style="list-style-type: none"> 目視確認する 	○				・地盤の軟弱(地耐力が低い)ところでは柱の埋込み深さや基礎サイズの大きさを考慮すること

			基礎コンクリートにクラックが発生する	・(P)基礎コンクリートは規定の混合比及びスランプ値が遵守されているかを確認する ・(P)基礎コンクリートは指定の基礎資材を使用しているかを確認する	・現場での実測にて確認する ・計測器具にて数値確認する		○			・セメント急結剤は使用しないこと ・海砂、海砂利は使用しないこと ・コンクリート投入後に十分に付込みを施すこと ・コンクリートの打設後は養生を施すこと
			柱内の凍結膨張により製品が破損する	・(P)基礎の付け根位置にあたる柱に水抜き穴(6~10φ)を確実にあけたかを確認する			○			
シーリング	[07]	漏水	躯体内部への漏水が発生する	・(W)構造下地に下穴を抜いた際に確実にシーリングを充填してからボルト・ビス固定されているかを確認する ・(W)コーチスクリューは若干斜め上向きにねじ込まれていることを確認する	・目視確認する ・組立・施工説明書の確認する		○			
その他	[08]	アルミ部材が腐食する	アルミ材とスチール材を直接接触させて固定したため電飾が起きる	・アルミ材が亜鉛・ステンレス以外の金属と接触していないかを確認する	・目視確認する		○	(○)		・アルミ材が亜鉛・ステンレス以外の金属と接触する場合は必ず電氣的絶縁処理を施すこと
	[09]	熱膨張によって構成部材の変形や異音が発生する	アルミ材や樹脂材の熱膨によりキン音・コス音が発生する	・熱膨張(熱伸び)を考慮した長さに加工されているかを確認する	・目視確認する ・現場での実測にて確認する		○			
	[10]	労災事故・物損事故	施工中に足場設備から転落する 躯体に損傷が生じる	・保護帽、保護具、安全用具・養生材等を着用・装着して安全施工を実施しているかを確認する	・現場を指差確認する		○	○		
施工後・完成時	点検	[11]	ボルト・ネジ類の緩みや締め忘れ	部材嵌合部の固定があまりいためグラつく	・ボルト・ネジ類の取付け洩れや締め忘れ箇所がないかを確認する	・目視確認する ・触診により確認する		(○)	○	
		[12]	施工(設計)プランの仕様と製品現物の仕様が異なる	完成したスクリーンのサイズが設計プランより小さい	・施工図や要領書通りの仕様に施工しているかを確認する	・施工図等の仕様情報を確認する ・目視確認する ・現場での実測にて確認する		(○)	○	
		[13]	部材の傷・へこみ	柱に工具が当たって打痕ができた	・部材表面に損傷がないかを点検・確認する ・部材に異物やモルタル等の付着がないかを点検・確認する	・目視確認する ・触診により確認する		(○)	○	
養生・清掃	[14]	完成品の汚れ、現場周辺の散らかり	完成した製品に砂埃が付着したままになっている	・完成した製品のクリーニングを実施したかを確認する ・施工作业終了後に確実な3S(整理・整頓・清掃)を実施したかを確認する	・目視確認 ・点検表等を活用した実施チェックによる確認			○		・汚れ等は中性洗剤で洗浄すること
			残材や残土が現場に残りっぱなしになっている	・産廃物等を確実に現場から持ち帰ったを確認する				○		・廃棄物処理業者へ依頼すること ・廃棄物は指定の場所へ廃棄すること
			柱基礎部分の形材表面にコンクリートが付着して剥離できない	・施工完了後に完成した製品に傷や汚れがないかを必ず点検する ・必要箇所に傷や汚れ防止の養生処理を施したかを確認する				○		
その他	[15]	取扱説明書の不備	製品引渡し後の定期清掃の方法が分からない	・予め決められた所定の位置(場所)に'引渡し物'(取扱い説明書等)を保管したかを確認する ・居住者のいる現場では施主に取扱い説明書を忘れずに渡したかを確認する	・目視確認する ・現物を指差確認する ・点検表等を活用した実施チェックによる確認				○	

[スクリーン施工以外の要因]

計画設計	打合せ確認	[16]	コンプライアンス違反	非常用進入口を塞いで製品を取付けた	・民法や地域の条例等に抵触していないかを確認する	・元請または建築士に確認する ・施主との打合せにより確認する	○				・建築確認申請が必要な場合はその旨を施主に説明すること ・建築確認申請が不要(床面積が10㎡以内)の工事でも、商品を設置することによって法令等に抵触することがあるため、計画の際には元請や建築士の指示を仰ぐこと
施工前準備	工程	[17]	施工できない	関連他工事が完成していない	・屋外配管工事等、関連他工事が完了されているかを確認する	・工程表で確認する ・現場調査時に目視確認する ・現場監督者・施主に工程を確認する	○				

施工後	その他	[18]	施工後の損傷	製品施工後に関連他工事による損傷が発生する	<ul style="list-style-type: none"> ・損傷の状態を点検・確認する ・適切な養生を施していたかを確認する ・責任の所在を明確にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・現場監督者・施主と共に確認する 			○	<ul style="list-style-type: none"> ・発生時には現場監督者・施主に速やかに報告すること ・修理・補修方法について現場監督者・施主の判断を仰ぐこと
-----	-----	------	--------	-----------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------	--	--	---	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------